

付属施設等

1 人間・科学・宗教総合研究センター

人文・社会・自然科学分野において、文化や科学技術の創造に寄与する学術研究活動を展開しています。

● 古典籍・文化財デジタルアーカイブ研究センター(DARC)

文化財展示を行う博物館、美術館、図書館において、デジタルアーカイブと実物展示が連携した展示支援、展覧方法の研究・開発を行います。

● 地域公共人材・政策開発リサーチセンター(LORC)

「誰一人取り残さない、持続可能で多様性と包摂性のある社会」の実現に貢献する理論と実践の展開を目的として、これまでの研究成果やネットワークを活かした研究を推進し、「包摂的展開(Inclusive Development)」を可能にする新たなエコシステム創出を目指しています。

● 里山学研究センター(RCSS)

「龍谷の森」の地に足をつけた研究・教育・社会貢献の推進を目指し、これまでの研究蓄積を発展的かつ批判的に継承しつつ、「人新世」や「地球の限界」の提唱といった時代認識を踏まえて、新たな「自然」概念構築と「自然との対話」のための方法論確立・実践に向けた文理融合研究を推進しています。

● グローバル・アフェアーズ研究センター(GARC)

グローバリゼーションの進展に伴う諸問題を分野横断的な視点から研究を進めることを目的とし、とりわけ新しく仏教の視点を取り入れながら未来を視野に入れた研究を展開しています。

● 革新的材料・プロセス研究センター

省エネルギー、低環境負荷をキーワードとし、持続可能な社会形成につながる材料科学研究を推進してきました。今後も、引き続き、これまでの実績を基に、新たな変革の時代に対応した研究を推進していきます。

● 社会的孤立回復支援研究センター

with/afterコロナ時代においても顕著な「社会的孤立」という現代的課題を研究対象とし、個々の孤拉から社会的孤立に至るメカニズムの解明や、回復のための理論仮説の検証、支援ネットワークの構築などに関わる諸現象を理論的・実践的・学際的(学融的)・国際的観点から、調査研究するとともに、それらにまつわるその知見を踏まえ、「つまずき」からの“立ち直り”を支援することを目的に研究を展開します。

● 犯罪学研究センター(CrimRC)

新時代の犯罪学創生プロジェクトとして、「犯罪をめぐる「知」の融合と体系化、政策群の科学的再編、「知」の担い手の育成を目的に、国内外の研究者・研究機関とともに研究を進めています。

● 生物多様性科学研究センター

生態系調査手法「環境DNA技術」を発展させ、広域生物多様性観測を実施し、得られたデータから日本における生物多様性のパターンを研究しています。

● 発酵醸造微生物リソースセンター

滋賀県の発酵醸造関係企業との共同研究や地元産業界との連携により地域活性化を図りながら、食品や自然環境から探索・収集した麹菌、酵母、乳酸菌による微生物間相互作用のメカニズムを明らかにし、新たな発酵食品開発を目指した研究を展開します。

● 刑事司法・誤判救済研究センター(RCWC)

よりよい刑事司法と誤判救済のありかたについて、持続可能なかたちで作り、探求することを目的として、えん罪による被害を直視し、社会全体で克服することを目指しています。

2 世界仏教文化研究センター

仏教の思想・歴史・文化、およびその関連領域に関する総合的学術研究を行い、かつ現代世界の諸課題・苦悩に応答する研究を推進しています。(2015年4月～)

● 人間・科学・宗教オープン・リサーチ・センター(CHSR)

仏教・浄土教の救済観を礎にしなが、生の完遂、死から生まれる志願、慈愛、感謝を育む教育研究を世界に発信しています。

3 付置研究所

個人研究や共同研究など、各分野における基盤的研究の強化をはかりながら、国際的な学術研究の向上、科学技術、および地域社会の発展などのために3研究所・1センターを設置し、研究推進をはかっています。

● 社会科学研究所

新たな社会科学創造と発展に寄与することを目的として、研究・調査、出版、資料収集活動を行っています。

● 科学技術共同研究センター

科学技術の創造と発展への寄与・研究成果の社会還元を目的として、共同研究活動・技術講演会・産学交流事業を3本柱に、新技術開発・人材開発に貢献しています。

● 国際社会文化研究所

地域・社会・福祉・国際文化・国際共生・その他人文社会の分野に関する調査研究、並びに国際的研究交流を推進しています。

● 食と農の総合研究所

食と農に関する農学を中心とした分野に関する複合的・学際的・国際的な研究、および地域社会との連携をも視野に入れた研究を推進しています。